

「堺 ブランドツアー レポート」

池田 順一

人脈 堺刃物ミュージアムは1階の大半が展示と販売をかねたつくりとなっており、この組織を運営してきている人脈が堺うち刃物の組合を構成している。

物語 鉄砲 うち刃物 自転車という明確な技術の伝承がいまも生き続けているというわかりやすい歴史が積み重ねたブランドが鮮明である。

素材 歴史の物語として生きている素材の展開がみられない。歴史を生かす Vision にかけている。刃物 料理 自転車 環境

通り 環濠都市の Vision が鮮明でない。なぜ、環濠都市なのか。ちゃんげちゃんの2番煎じのにおいがする。独自のコンセプトと議論の記録がほしい。

建物 「堺打刃物」の軒灯、大鎌、看板のシーンは最高にすばらしい。

以下は堺市発行のパンフに紹介されているシーンです。

写真にある自転車は別に自転車のまちというコンセプトを別に演出するほうがいいのではと気にはなりましたのでご紹介します。



お店 打刃物を展示している刃物製作所が多くある。

メディア 堺市発行 「東西鉄軌道の実現にむけて」2007年1月発行は欧州の写真が中心で、肝心の相互乗り入れ相手の阪堺線を生かすことによる都市活性化の具体例がイメージ不足

イベント LRTのモデル、阪堺線のモデルを使ってペイントするイベントなど 阪堺線ぶらりマップのデザインコンセプトを若い学生にチャンスを与えてつくりなおすとか。デザイン学校と協賛するなど、若者参加するためのいいイメージを演出する。